

東京江東ロータリークラブ

2025～2026年度 テーマ

よいことのために手を取りあおう

RI 会長 フランチェスコ・アレツォ
地区ガバナー 中川 雅雄

ROTARY Life

～継承～

クラブ会長 末次茂雄

今日の卓話

次回例会案内

2026年 新年会

職業奉仕について 鈴木隆雄会員

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp http://www.koto-rotary.jp

例会報告

1/13 会員数 16 名中 14 名
出席率 82.35%
【訂正出席率】12/9 訂正なし



会長・幹事報告



- 13日(火) 理事会・被選理事会・例会
- 20日(火) 新年会：(夜間例会)
- 29日(木) 東京ベイロータリークラブ 35周年記念例会



ニコニコボックス



竹川勝治君・佐久間賢治君(東京東 RC)：墨田江東グループ 2026～2027 年度、ガバナー補佐、グループ幹事として参加させていただきます。宜しくお願いいたします。末次会長：佐野様、本日は卓話宜しくお願いします。

熊川幹事：本日もよろしくお願いします。

菅澤君：本日もよろしく。

伊藤(三)君：新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

鈴木君：明けましておめでとうございます。在籍 25 年だそうです。年の後半は幹事職です。よろしくお願いします。

鯉淵君：今年もよろしくお願いします。

小嶋君：竹川ガバナー補佐エレクト、本日はありがとうございます。

小野君：今年もよろしくお願い致します。

佐野様、本日の卓話楽しみにしております。

堀君：今日もよろしくお願いします。

大屋君：あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

合計 61,000 円
累計 960,000 円

<委員会報告・その他>

- 【回覧】：各施設からの年賀状・大規模公益法人ガイドブック
- 【配布物】：ロータリーの友 1 月号・週報 NO.19
- 回通常例会は、1 月 20 日(火)(夜間例会) 新年会となっております。
- 欠席されます方は、事務局までお知らせください。
- ・堀親睦委員長：年末家族会収支報告



2026年1月のロータリーレート【1ドル156円】

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

- 例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト 21 東京内 TEL : 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日 12時30分～13時30分
- 事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト 21 東京内 TEL : 03(5632)3777 FAX : 03(5632)3737



パラオ～緑の島のお墓に想いを寄せて～ 佐野 久子 様(歌手)



パラオ共和国という国をご存知でしょうか。今日は親日国であるパラオと、私との繋がりについてお話をさせていただきたいと思います。パラオは、亡き父が生まれた国です。子供の頃から「パラオ」というワードは、常に私の心の中にありました。

現在、私はフリーで歌わせていただいております。そんな私が3年ほど前に、いつかパラオに行って歌いたい！というのを思うようになりました。どうすればそれが叶うのか…全く見当もつかないまま、とにかくそれをあちこちで吹聴することになりました。

すると、お友達が、「私のお知り合いがパラオのことを一生懸命やっている」とご連絡くださり、そこでご紹介いただきましたのが、江東ロータリークラブの伊藤さんでした。

伊藤さんのご縁で駐日パラオ大使館にご一緒させていただき大使に、祖父のこと、父のこと、私が歌っていることをお話ししましたら、「いいですね。10月1日が独立30周年なので、歌いますか？」と！！独立記念日の前日の祝賀会で歌わせていただきました。

こうして私はパラオとご縁が出来き、祖父や父のことを少しずつ調べ始めました。

祖父や父の戸籍などから、父の長兄が大阪で生まれたあとに祖父たちはパラオに渡ったこと、祖父の職業は電信課で課長をしていたことが、職員名簿からわかりました。

1944年7月、祖父は「これからパラオは戦禍が酷くなる。

女子供は日本へ帰れ。」と話したそうです。祖母はその年の春に生まれたばかりの私の叔父を含む5人の子供を連れて船でパラオを離れました。

出航のとき、祖父は腰にサーベルを付けた正装姿で敬礼。それが最期となってしまったという話を父から聞きました。

パラオの港から日本に向かった20数隻のうち、無事に辿り着いたのは、たったの2隻。父たちが福岡の門司港に着いたのは2ヶ月後の1944年9月でした。

昨年12月、パラオ日本大使館の主催のコンサートで歌わせていただきました。パラオの皆さんは日本の演歌がとてもお好きで、ペリリュー島の慰霊祭でも歌を捧げさせていただきました。

そして記憶に新しいところで「ペリリュー～楽園のゲルニカ～」という映画も公開され、敬宮愛子内親王もご鑑賞されました。

今回の旅で一番心に残ったこと…。

1930年生まれのパラオ人の女性に運良くお目にかかれました。父が存命であれば同い年です。軍歌を歌ってくださいました。その方が私に言った言葉。「戦争は二度とやってはいけません。あなたは日本に帰ったら、みんなにそれを伝えなさい。」

私ひとりの力は小さく弱い。でも、82年前に勇気を持って日本へ家族を送り出してくれた祖父。死と直面しながらも日本に辿り着いてくれた父。その命に私は繋がれました。

日本とパラオのために、私は命を使いたいと思います。